

第1号議案 平成29年度事業報告承認の件

平成29年度事業報告書

自平成29年 1月 1日
至平成29年12月31日

一般社団法人 日 本 書 道 院

当法人の平成29年度に於いて実施した事業は次のとおりである。

1. 第66回日本書道院展

4月2日（日）～8日（土）（3日休館）、東京都美術館で開催した。本年から会期が1週間早くなり桜の季節に開催でき、華やかな展覧会となった。一科・二科・三科の漢字・かな・詩文書を含めて1274点が出品され26点増加した。第3科を「咲蕾（さくら）展」と題して、半紙サイズで出品できる新たな取り組みに100点の出品があり増加につながった。高齢化が進んでいる今後の書道界全体へ一つの方角性を提案した企画となった。役員中心の第1室から審査会員の部屋は本院の特徴である漢字長条幅に加えてかな・詩文書の作品とのバランスも良く壮観であった。恒例になった席上揮毫では前年度の文部科学大臣賞並びに21世紀賞を受賞した方が中心に4日（火）に開催し観客を湧かせた。7日ホテルラングウッドの表彰式・祝賀会には平日にもかかわらず300人を大きく超える出席があり、文部科学大臣賞選考委員や全日本書道連盟並びに毎日新聞社・毎日書道会からの来賓もご列席いただき盛会であった。会期が春休みと重なったため、学生・生徒の入場者が多く13691人と過去最高を記録し大成功であった。本年開催の第67回展から公募部門に埼玉県知事賞が新設されます。出品者の更なるチャレンジに期待します。

2. 第66回全国学生書道展覧会開催と表彰式

日本書道院展と東京都美術館で同時開催した。出品点数は2002点とやや減少したが2000点の大台を超え関係団体からも高い評価を得た。作品内容も良く、春休みと相まって平日も多くの観客を得、5154人とこちらも最高の入場者を迎えた。初日の4月2日（日）午後、ホテルラングウッドで行った文部科学大臣賞以下の表彰式には、受賞者の家族を含めて今年も800人を超える参加者で盛大・厳粛に

開催できた。例年と異なり式典終了が夕方となったが、受賞した多くの笑顔が夕闇の帰路へ導いた。

3. 第5回100人展・第34回選抜展・第9回同人展

11月21日（火）～26日（日）までの間100人展・同人展をフェニックスホール1・2階で、選抜展をセントラルミュージアム銀座で開催した。3つの展覧会で400点に及ぶ作品がビル全体を飾り、銀座開催最大規模の展覧会は大きな評判となった。出品者も会場効果を熟知した作品内容で形式・展示バランスも良く大変好評であった。

26日に開催した祝賀会には、来賓も含めて200人近い出席者があり和やかなうえに盛況であった。

次回は100人展と選抜展会場を入れ替えることで、今までと違った企画を検討している。

4. 「遊びごころを楽しむ」日本書道院小品展

今回で3回目の展覧会を8月22日～27日に開催した。理事・監事に加えて毎日書道展本院所属審査会員・会員からの選抜と今年の第66回日本書道院展で同人以上の最高賞受賞者合計71人（73点）で東京・鳩居堂3・4階で開催した。まだまだ暑い8月末であったが作品は年々用紙・墨色・構成・素材と変化に富み、小品の中に大きな驚きと感動を与える内容となった。入場者は2213人と多くの人で賑わった。業界誌の評判も上々であった。

5. 第69回毎日書道展

第69回展で日本書道院は1224点と若干減ったものの団体別出品数は今年も堂々の第6位でした。入選率は上がり、入賞者は毎日賞9名、秀作賞20名、佳作賞35名・U23新鋭賞1名と計65名に加え、特筆すべきは漢字部・かな部で会員賞を受賞し素晴らしい成績でした。7月23日の表彰式は本院の受賞者が多数参加して互いに喜び合った。式典後会場のホテルで日本書道院の祝賀会を開催し役員・受賞者等90名に上る方が出席し楽しいひと時を過ごした。なお、今回の入賞等で会員昇格者が5人、審査会員への昇格者が2名となった。今年の第70回記念展に是非御参加下さい。皆様の力強いご支援をお願い致します。

6. 支部長会

6月11日(日)第32回支部長会を日本書道院会館で109名の出席を得て開催し、師範・準師範及び昇段昇級試験の指導ポイント、競書出品時の注意事項、展覧会出品のための講習会の周知等をはかり充実した時間であった。

11月12日(日)には第33回支部長会を、こちらも日本書道院会館において103名の出席で開催し、30年度前期実施の準師範試験以下の説明等と「日本書道」誌に「毛筆細字部」新設した旨周知した内容であった。

7. 広島・岡山方面研修旅行

10月27日(金)～29日(日)岡山・広島方面へ書蹟を中心にした研修旅行を行った。初日は岡山県立美術館で「良寛」の150点以上の作品を学芸員の解説を受けながら見学。岡山・後楽園に寄ったのち広島・福山で開催中の「第8回福山相峻会かな書展」へ向かい、272点の小倉100人一首作品を堪能した。翌日向かった「村上三島記念館」では折しも昭和・平成を代表する書家数十人の特別展が開催中であった。平山郁夫美術館・大山祇神社・酒造メーカー等も巡り有意義であった。四国から1科審査会員の中西さんと広島熊野から一休園・仿古堂も加わり総勢24名の参加となった。台風の進路と重なったが、大きな交通遅延もなく予定通りの研修旅行となった。

8. 錬成会の開催

日本書道院展・毎日展及び100人展・選抜展・同人展出品者の指導と研修を目的に、錬成会を開催した。

- ◆ 1月28日(土)～29日(日)台東区民会館 参加者157名
- ◆ 3月19日(日)台東区民会館 参加者75名
- ◆ 7月27日(木)青山・善光寺 参加者104名
- ◆ 12月24日(日)川口・リリア 参加者82名

なお、下記の各支部主催による錬成会の開催予告を「日本書道」誌上に掲載し、多くの受講者が参加され成果を収めた。講師は本院から派遣した。

開玄社 相峻会 清真会 水光会 静書会 玄同社

9. 師範・準師範・昇段級受験者のための研修会

9月5日(火)、師範・準師範・昇段級試験受験者を対象として、日本書道院会

館で添削指導を行った。郵送での添削希望者も含めて69名を数え、会場の日本書道院会館3階は一杯となった。

10. 同人昇格者推薦証・師範合格認定証交付式及び同人展表彰式

12月3日(日)同人昇格者27名、第59次漢字・かな及び第17次詩文書の師範に合格された98名に推薦証並びに認定証の交付を行った。また、併せて第9回同人展授賞式を開催した。会場となったホテルラングウッドは参加者が多く大きな喜びでいっぱいにつつまれた。式典後役員を囲み和やかに昼食会を開催し、それぞれ親睦を深めた。

11. 機関誌「日本書道」の刊行

昭和32年11月創刊以来、平成29年12月現在をもって通刊722号を数え、発行部数は5,400部である。

12. 関係文化団体との協力について

関係文化団体との連絡提携には格別の意を用いている。公益社団法人全日本書道連盟は維持団体、一般財団法人毎日書道会は参加団体、一般財団法人日本中国文化交流協会は特別会員として加盟している。

なお、中村雲龍会長は全日本書道連盟副理事長・毎日書道会監事・日本中国文化交流協会常任委員として協力している。

13. 会員との連絡について

会員との連絡については、機関誌「日本書道」を通じて周知徹底を図っているが、別に重要な事業については直接会員に通知している。なお、12月1日現在の会員名簿を会員に頒布した。

14. 会報の発行

12月20日付をもって「会報」40号を発行した。

15. 役員会及び各種委員会の開催

役員会7回 各種委員会・打合せ会7回

16. 支部の指導と地方展の後援

支部の行事と地方展に対する指導後援は次のとおりである。

- | | | | | |
|-----|-----|-------------|-----|----------|
| (1) | 1月 | 開玄社書展 | 1月 | くれない会書展 |
| | 1月 | 第40回記念静書会書展 | 2月 | 祐正社書作展 |
| | 6月 | 祥祇会書展 | 8月 | 墨翠会書道展 |
| | 9月 | 玄同社書展 | 10月 | 嘯風書展 |
| | 10月 | 耕心書会展 | 10月 | 葵心会書展 |
| | 10月 | 福山相峻会かな書展 | 11月 | 研精会書作展 |
| | 11月 | 松友会書道展 | | |
| (2) | 1月 | 相峻会研修会 | 1月 | 玄同社錬成会 |
| | 2月 | 清真会研修会 | 2月 | 広島相峻会錬成会 |
| | 7月 | 開玄社合宿勉強会 | 7月 | 水光会作品研修会 |
| | 10月 | 静書会研修会 | | |

17. 会員数

12月31日現在の本院の会員数は1,624名である。

18. 平成29年12月末現在の役員は次のとおりである。

常任顧問	高橋 静 豪	北島 露 光
顧問	石塚 秀 石	金子 薫 静
	神谷 京 子	清水 行 風
	中塚 博 子	
会長理事	中村 雲 龍	
副会長理事	三宅 相 舟	細 湊 柳 青
常務理事	斉藤 龍 堂	遠 山 白 雲
	成田 寿 苑	
理事	市川 嘉 泉	稲 葉 如 龍
”	荻野 静 雲	白 石 東 苑
”	菅谷 志 水	堀 雅 峯
”	本堂 耿 苑	宮 崎 邑 鶯
”	山田 白 苑	
監事	青砥 相 蓉	吉 田 清 翠
	中村 忠 雄	

平成29年度事業報告に関して、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定している附属明細書により、その内容を補足すべき重要な事項はありませんので附属明細書は作成しておりません。